

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470900242		
法人名	株式会社 アルテディア		
事業所名	グループホームゆうゆう・多賀城	ユニット名	ふじ
所在地	宮城県多賀城市高崎3丁目29-1		
自己評価作成日	令和2年11月2日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2 年 12 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が今したい事が出来き、その人らしく暮らせるよう、時間にとらわれないケアに努めている。職員主体の生活にならぬよう、利用者様と寄り添い、本当の思いを引き出し、出来る事を奪わないケアを心がけ、コミュニケーション大切に、笑いの絶えない雰囲気づくり目指している。一日の中で多くの笑顔を引き出せる声がけ対応し、職員も笑顔でいる事を心がけている。ご家族への報告、相談を細目に行い、利用様、ご家族の不安や疑問が無いよう努めている。コロナ禍で外出が難しいが、施設内で季節を感じる事の出来る行事を毎月行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多賀城市役所から西へ800mの所、平屋建ての3ユニットから成る「グループホームゆうゆう多賀城」がある。学校や文化施設、商業施設が散在する中の住宅地の一角にあり、開設17年で地域に馴染んだ暮らしをしている。基本理念の「すべての高齢者が自分らしく生きて笑顔でいられる社会作り」を根幹にして、より良いケアをするために、各ユニットが独自の目標を掲げ達成に向けて取り組んでいる。入居者の残存機能を引き出す支援や入居者主体の観点で接遇することを大切にしながら、入居者が快適に暮らせるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームゆうゆう・多賀城)「ユニット名 ふじ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念を基にユニット目標と自己目標を立て日々のケアに活かしている。	基本理念の「自分らしく笑顔でいられる」ことを継続している。毎年4月にユニット毎に話し合い、日頃のケアを振り返り、「相手の身になって考える」や「本人を知る」など、各々目標を具体的に掲げて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染防止の為、現在は行えていないが、以前は毎月認知症カフェを開催し、地域の方や利用者様が参加し、交流をしていた。現在は散歩の際は挨拶をしたり、近所の美容院を利用する程度である。	例年では地域の避難訓練に参加したり、手話や着物ボランティアの来訪、体験の受け入れなど多くあった。今年は市の指導があり、3月から来訪を禁止し、カフェの開催も中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は認知症カフェを開催し、その中で悩みを打ち明けられる機会を設け支援していた。現在は見学、相談の際にご家族の話をゆっくりと聞き、少しでも力になれよう、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて開催できていないが、利用者様の様子や取り組みを議事録を作成し、ご家族等に配信している。	入居状況や活動の報告、ケアの課題と取り組み実践についてなど報告している。市の発令を受けて、3月より会議開催を中止し、紙面配信を行っている。毎回の配信に、ホームでの感染防止対策状況を載せている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議議事録提出し、情報共有し協力、相談等していただいている。	感染予防に関して、面会に対する規定などの通知が届いている。台風の際に、担当課に入居者が利用可能な避難所の確認を行った。居室の空き状況について、相談を受けることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクの把握や情報共有に努め、身体拘束にならないように気を付けている。やむを得ない場合はご家族に了承を得て記録に残している。新人職員対象に身体拘束の勉強会を実施した。	各ユニットの職員で構成する「身体拘束廃止委員会」を開催している。ベッドの2点柵対応は家族の要望であっても「拘束でないか」やセンサーの使用は、職員の安心材料ではないかなど話し合った。身体拘束をしない工夫を検討するなど有意義な会議になっている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やマニュアルの確認、基本の振り返りを行ったりすることで防止に努めている。	身体拘束も虐待行為として捉え、委員会の議題に取り上げている。入居者の周辺行動を記録し、環境変化などを分析しケアに活かしている。職員との個人面談を持ち、ストレスを溜めない配慮をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、不適切ケアから身体拘束について自施設での勉強会開催し、理解を深め、そのケアに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の不安な点などの確認をし、文書や口頭での説明を行い、理解と同意を得ている。改定時も資料の提示、説明、了承を得ている。また、いつでも不安や疑問がある際は迅速に対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りで生活の様子を報告している。また、面会時や電話の際に詳しい様子を伝えたり、要望をうかがっており、ご家族が話しやすい関係性を構築している。	毎年「利用者満足度調査」を実施しており、様々な意見を聞いている。職員の接遇の仕方やケアに関すること等、それぞれに対応している。面会については、3月から要予約や時間、人数などを制限して行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや毎月のユニット会議で挙げた課題は主任会議に反映されている。管理者がユニット会議に参加することも多い。	環境や防災、勉強、リスク・感染などの委員会があり、職員の意見を反映させて運営している。ユニット会議では、テーマを決めて発言の機会を作っている。個別ケアについての工夫や意見が多く、反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標の設定を行い、向上心を持ってよう努めている。資格取得への協力体制もあり、資格手当も充実している。また、相談しやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修への参加を行っており、研修後の伝達研修を実施している。社内研修は新人職員対象中心に実施している。職員それぞれの優れている所を伸ばす声掛けを行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加や研修を通し個人の交流の機会を作っている。	グループホーム協議会の「感染症に係る応援職員の派遣」の説明会に参加し、感染者が出た際に入居支援を継続できる協力体制づくりを行った。前年に交換研修を行い、入居者への対応など相談し合うことができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の言葉に耳を傾け気持ちを汲み取り日々のケアに活かしている。その都度、気が付いた点は職員間で申し送りをを行い対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調時の聞き取りやセンター方式を活用してご本人やご家族の思いや希望、不安等を知る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談の際によく話を伺いどのような状況であるかを確認し必要な対応をしている。入居後は、直ぐに職員間で情報共有し、適切な支援が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において共に作業する時間やレクリエーションの時間を大切にしている。その方に合った役割の提供を行い、日々感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日ごろの様子をご家族に伝えている。また、入居前のことなどをご家族に伺い、職員間で共有している。毎月、お手紙にてその月の様子や出来事を報告し、こまめな電話での連絡を行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親族の方に話を聞き、ご本人の大切にしてきたことを知り、理解し、情報共有しながらケアに反映させている。	生活歴を把握し、神社や動物園などに出掛けていた。会話に出てきた場所や趣味に、入居者の目が輝いたことを察知し、馴染みの場所や趣味だったことを知ることもあり、継続して対応につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で会話を楽しんだり、気がねせず過ごせるよう職員が間に入り、会話やレクリエーションを行っている。又、利用者様同士で楽しく過ごせるよう席の配慮もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報共有や他のサービスへの移行時、相談や協力をし、支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や言動に気を配り、利用者様の意向に沿えるよう努めている。	生活歴を参考にしたり、「やりたい」「食べたい」の思いを本人や家族から引き出している。職員はVR機で入居者目線を体験し、行動の不安は言葉で軽減できないことを実感し、言葉掛けのケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から話を聞いたり、利用者様との会話でその方を知る努力をしている。特に好きな物や好きな事がここでの生活に反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援の必要な部分、徐々に支援が必要になってきている部分などミーティング等で話し合い共有に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員から意見を集め、ご家族の意向、利用者様がどうしたいかを考え、介護計画を作成を行っている。	「混乱や気分の落ち込み」を課題とする入居者について、「認知症を学び状況に合わせた声がけとケア」を計画書に入れた。本人意向の「自分でしたい」に応じ「家事支援の継続」で、その人らしい生活の継続を盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録を記入し、ミーティング申し送りや文章と口頭で情報共有している。変化がある際は都度、話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化や気付いた事の報告をしている。グループホームで出来る事、出来ない事を明確にし必要に応じて協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は一緒にスーパーやコンビニに買い物に行っていた。認知症カフェも毎月開催し地域の方との関わりがあったが、現在は散歩の際に挨拶を交わす程度である。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診の際は職員からの状態報告を行っており、希望者は月二回の往診医対応となっている。また、往診の結果は必要に応じ、ご家族を行っている。	ほとんどの入居者が訪問診療を受けている。週1回、訪問看護師が来訪し軽度の処置などを行っている。入居者に状態変化が見られた際は、主治医の指示を仰いでいる。歯科の訪問診療は7月から再開している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護を利用、文章と口頭での申し送りをし、アドバイスをいただいている。訪問日以外でも電話での相談も行え、往診医との連携もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や利用者様の不安等を少しでも軽減できるように医療機関との情報交換とご家族との情報共有に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況に合わせご家族との話し合い、意向の確認を行っている。往診医、ご家族とも情報共有し取り組んでいる。	入居時に、看取り介護について指針を説明し、同意書を交わしている。医師の判断によることや本人・家族の意向に従って援助することを伝えている。出来る限り口から食べることができるよう支援すること等、状態に応じて段階ごとに話し合いを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命救急勉強会を行っていたがコロナ禍にて実施出来ていない。AEDの設置をしている。利用者様の急変時は往診医や訪問看護師と連絡相談し、指示を仰いでいる。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍以前は総合避難訓練、夜間想定避難訓練を行っていたが、今年度は実施出来ていない。備蓄品の確認、緊急連絡網や災害時マニュアルの見直し等、出来る事を行っている。	備蓄品の在庫確認や補充をしたり、機器の点検や災害時連絡網の作動訓練を行った。コロナ禍や管理者の入れ替えなどがあり、隣接する同法人の通所事業所にならない、今年度の避難訓練はしていない。	入居者の命を守るための訓練であることを再考願いたい。ウイルス感染予防策を保持しながら、独自に行える避難訓練のあり方を検討し、実践していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の発言や気持ちを否定せず、話を聴きプライドを傷つけないよう努めている。	「不快のないアプローチ」の研修で、やってはいけない対応や言い方などを学んだ。声がけの際は、時間帯や自負心などの性格を考慮し、その人の「今の状態はどうか」などに気を配って言葉を選んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを大切にし、希望や思いを引き出す声がけを行っている。何かを決める際、二者択一にするなど、自己決定しやすい工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを大切に体調や気分に合わせて、臥床してたり、食事の時間をずらしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント時に女性の方にお化粧を行っている。また、着替えに際に服を選んでもらい、代行する場合はご本人の好みに合わせ選んでいる。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや味見など一緒にしてもらっている。食後の食器洗いや、拭きかたなどしてもらっている。	餅つきして供え餅を作ったり、夏に流しそうめんやかき氷で季節を楽しむ工夫がある。花見には、好きな物や食べたい物が並び、鮭のたたきやカップ麺など多彩である。行事食には職員のアイデアが活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に合わせて、ミキサー食や刻み食等対応している。体調に合わせて、食が進まない方には補食(ご本人の好きな物)を用意するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声がけと実施している。支援が必要な方の口腔ケアをその方に合わせ行っている。定期歯科検診や希望者には週一回の歯科往診がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人でトイレに行けない方は排泄パターンやご本人の言動で排泄サインに気が付きトイレ案内を行っている。夜間、オムツを使用している方でも日中は布パンツにパッド対応している方もいる。	失敗の回数が増えても、すぐにはオムツにしないことや座位が取ればトイレを使用する等を共有している。尿意を感じてもらうことを大切に、その人毎に適切に誘導することで、リハパンから布パンツになった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に毎朝ヨーグルトをお出ししたり、水分を多めに摂っていただけるよう声がけや、水分チェックを行っている。また、排便困難な方には医師と相談しながら、下剤や坐薬で調整している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	着替えなどの準備が出来る方は一緒におこなったり、脱衣所で好きな歌を流し、一緒に歌う事もある。入浴の希望があれば、出来る限り応じるよう努め、浴槽をまたげない方は二人介助で対応し、ゆったりとお風呂を楽しんでいただいている。	入浴時は「気持ち良く、安全に」に気を付けている。「いかがですか」など、その人に合った無理強いない誘い方をしている。入浴を認識できない入居者には、湯船の湯に触れるなど前段を踏む支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に眠気のある方を居室に案内し休んでいただき、ご本人のその日の体調に合わせて対応している。足の冷えが強い方には湯たんぽを用意し、気持ちよく眠れるようにしている。夜間、眠れない方には温かい飲み物をお出しするなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬への理解に努め、変更がある際の情報共有を徹底し、状態の要観察を行っている。夜勤者による薬の仕分け後、必ず他の職員と薬の確認し、出勤時、内服前、内服後も薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き等を得意な方にお願いしている。裁縫が得意な方に職員のエプロンを縫ってもらうこともある。計算プリントやぬり絵を得意な方に提供している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防の為、花見やもみじ狩り等は実施できなかったが、近所へに散歩や帰宅心が強く方には外に出たいその時に一緒に外に出る支援を行っている。	ホームの敷地内を散歩している。中庭では、日差しを浴びてトンボを交えての芋煮会をした。コロナ禍で外出を避け、桜のタペストリー制作で花見気分を出した。恒例のあやめ見学に代えて、パネルを作って記念撮影するなど、入居者の笑顔を引き出す工夫をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	カット等での外出の際はご本人に財布をもって頂き、ご本人の希望に合わせ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望がある際はご家族に電話をつなぎお話ししている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の清潔を保つ為、毎日の清掃を行っており、湿度・室温の管理を行っている。リビングに季節の花を飾ったり、季節に合わせた歌の歌詞を掲示している。	リビングには、みんなでオーナメントを付けたクリスマスツリーやリースを飾っている。それぞれのユニットで、季節に合ったちぎり絵などの作品を飾っている。職員の提案で、加湿器を追加して配置した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでゆったりと過ごせるようソファを用意し、そこで休まれる方もいらっしゃる。気の合った利用者様同士と一緒に楽しく過ごせるよう、席の配置や環境を整えている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にご本人の使い慣れたタンスや家具を置いたり、慣れ親しんだ物(ぬいぐるみ、故郷の写真、ご家族の写真)を飾り、安心して居心地よく過ごせるようにしている。	状態の変化に応じて、布団からベッドに変えるなど、暮らしやすさを大切にしている。自分で配置換えをする人もいる。自宅に飾っていた本人制作の手毬を居室に飾るなど、リロケーションダメージに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内はバリアフリーで動線には物を置かず、安全に歩行できるように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470900242		
法人名	株式会社 アルテディア		
事業所名	グループホーム ゆうゆう・多賀城	ユニット名	もえぎ
所在地	宮城県多賀城市高崎3丁目29-1		
自己評価作成日	令和2年11月2日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2 年 12 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「すべての高齢者が自分らしく生き笑顔でいられる社会作りに貢献する」を基本理念とし、ご利用者様ひとりひとりのペースに合わせた対応を心掛け、ご家族様が相談しやすい雰囲気作りを心掛けています。「～安心・安全の生活の為に～・情報共有に心掛ける・他人事ではなく自分事として対応します」を今年度のもえぎの目標として個人の目標を立てて実践している。ご利用者様の小さな出来事も職員間で共有し、常に日々のミーティングで話し合い、全職員で共有している。月に一回の行事では季節を感じて頂き、ご家族様には笑顔の写真をお便りでお知らせしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多賀城市役所から西へ800mの所、平屋建ての3ユニットから成る「グループホームゆうゆう多賀城」がある。学校や文化施設、商業施設が散在する中の住宅地の一角にあり、開設17年で地域に馴染んだ暮らしをしている。基本理念の「すべての高齢者が自分らしく生きて笑顔でいられる社会作り」を根幹にして、より良いケアをするために、各ユニットが独自の目標を掲げ達成に向けて取り組んでいる。入居者の残存機能を引き出す支援や入居者主体の観点で接遇することを大切にしながら、入居者が快適に暮らせるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム ゆうゆう・多賀城)「ユニット名 もえぎ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念に沿って、外部評価、満足度調査の結果を踏まえ、もえぎの課題を明確にして、目標を設定、自己の目標達成を目指し実践している。	基本理念の「自分らしく笑顔でいられる」ことを継続している。毎年4月にユニット毎に話し合い、日頃のケアを振り返り、「相手の身になって考える」や「本人を知る」など、各々目標を具体的に掲げて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍で開催中止としているが、認知症カフェ、避難訓練、高崎中学校の生徒さんの敬老のお祝いの訪問、職場体験の受け入れ等に積極的でした。週に1回地域のボランティアの方に来て頂き、利用者様と交流の時間を作ってたが、それもご遠慮して頂いている。	例年では地域の避難訓練に参加したり、手話や着物ボランティアの来訪、体験の受け入れなど多くあった。今年は市の指導があり、3月から来訪を禁止し、カフェの開催も中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で中止としているが、認知症カフェの開催時、事例発表を行ったり、地域の認知症高齢者を支える家族へ理解や支援の機会を設けていた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍で中止となっているが、2か月に1回の運営推進会議を開催し、意見交換や、活動報告を行い、会議内容は議事録で共有していた。今年度は文書にて行政、家族、地域の方にケアの取り組みや、感染予防の様子等、報告している。	入居状況や活動の報告、ケアの課題と取り組み実践についてなど報告している。市の発令を受けて、3月より会議開催を中止し、紙面配信を行っている。毎回の配信に、ホームでの感染防止対策状況を載せている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて助言や指導を受けていたが、現在のコロナ化の状況から電話やメールで感染予防、災害時の避難について等確認したり、カフェ開催の相談等を行ってきた。	感染予防に関して、面会に対する規定などの通知が届いている。台風の際に、担当課に入居者が利用可能な避難所の確認を行った。居室の空き状況について、相談を受けることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍にて外部への研修の機会はなかったが、事業所内で「身体拘束とは何か」を新人職員も含め権利擁護の観点から学べるよう研修を行っている。身体拘束廃止委員会も定期的に行い、全職員で共有し「身体拘束をしないケア」の実践に取り組んでいる。	各ユニットの職員で構成する「身体拘束廃止委員会」を開催している。ベッドの2点柵対応は家族の要望であっても「拘束でないか」やセンサーの使用は、職員の安心材料ではないかなど話し合った。身体拘束をしない工夫を検討するなど有意義な会議になっている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自施設の勉強会や外部への研修に参加し、虐待防止、不適切ケアについても学び、防止に努めている。利用者の気持ちの理解を深める事から、ケアが不適切にならないよう学ぶ機会もあった。今年度は積極的な研修は行っていないが、高齢者虐待については理解し、防止に努めている。	身体拘束も虐待行為として捉え、委員会の議題に取り上げている。入居者の周辺行動を記録し、環境変化などを分析しケアに活かしている。職員との個人面談を持ち、ストレスを溜めない配慮をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は外部の研修への参加は難しかったが、自施設での勉強会にて理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、計画作成者が利用者様、御家族の不安、質問などをその都度十分に聞き説明する場を設け、納得が得られるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、行事、ケアプラン説明、毎月のお便り等を通してこまめに連絡を取り合っており、意見を聞き取りたい。今年度はご家族様参加の行事等を中止している為、紙面や面会時に対応する機会を設けている。	毎年「利用者満足度調査」を実施しており、様々な意見を聞いている。職員の接遇の仕方やケアに関する事等、それぞれに対応している。面会については、3月から要予約や時間、人数などを制限して行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ユニット会議を開き改善点等、話し合い管理者に報告している。各棟で出された意見は主任会議で共有、反映を行っている。	環境や防災、勉強、リスク・感染などの委員会があり、職員の意見を反映させて運営している。ユニット会議では、テーマを決めて発言の機会を作っている。個別ケアについての工夫や意見が多く、反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、職員一人一人の個人目標を設定し、やりがいや向上心をもてるよう、達成度に応じて評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、認知症ケアの基本の指導、定期的な勉強会等、自施設で行っていた。コロナ禍で外部の研修に参加する機会は減ったが、研修後は報告書の提出、棟での伝達研修などケアの向上に繋げている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会の会員であり、研修、交流、事例報告会、交換研修、災害想定模擬訓練の参加や外部の研修への参加を通じ、同業者と学ぶ機会も多い。コロナ禍にて活動は減ったが、リモートでの新型コロナウイルス感染症発生時の派遣要請説明会を行ったり、意見交換会を行った。	グループホーム協議会の「感染症に係る応援職員の派遣」の説明会に参加し、感染者が出た際に入居支援を継続できる協力体制づくりを行った。前年に交換研修を行い、入居者への対応など相談し合うことができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の思いや不安、御家族様からの情報、訴えをよくお伺いすると共に、お客様との状態をよく観察し把握、情報を共有し、安心できる環境作りを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が相談しやすいよう積極的に声を掛け、思いや要望、不安等を引き出せるよう努め、職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実調時には、御家族様にセンター方式を記入して頂き、情報収集し、ご本人をよく観察し、以前と変わらない生活環境を整えるよう努めている。初回カンファレンス時には、何に困っているのか、ニーズを職員間で共有し、プラン作成に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHを生活の場としてとらえ、できる事、できないことを見極め、できることは継続していけるよう、見守り支援、できないことはお手伝いしたりと生活の継続性につなげている。一緒に食事をしたり、隣席で記録を書く等いつもそばにいる関係性を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、積極的に会話し、要望等気軽に話して頂けるよう声掛けしている。相談事、特変時にはこまめに報告している。毎月のお便りにてご本人の様子を報告している。離れているご家族には、電話にて近況を伝える事もある。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で減ってしまっているが、御家族様との外出、外泊の時間を大切にしている。昔からの知り合いやお友達の面会も歓迎していた。松島や、塩釜神社など昔よく足を運んだ場所に出掛けたりもした。	生活歴を把握し、神社や動物園などに出掛けていた。会話に出てきた場所や趣味に、入居者の目が輝いたことを察知し、馴染みの場所や趣味だったことを知ることもあり、継続して対応につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様各々の性格を把握し、家事、活動等楽しんで頂けるよう、職員が間に入ったり、声掛けしたり対応している。他者様と関わり等もプランに取り入れることで、孤立しないよう努めている。座席の配置についても、関係性を考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他サービスへの移行時、相談やケアマネジャーとの協力を行ったり、状況に合わせて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の生活歴、日常の会話や表情の観察、コミュニケーション、ご家族からの情報等から、思いや希望に気づけるよう努めている。申し送りノート、ミーティング、カンファレンス等で情報共有している。	生活歴を参考にしたり、「やりたい」「食べたい」の思いを本人や家族から引き出している。職員はVR機で入居者目線を体験し、行動の不安は言葉で軽減できないことを実感し、言葉掛けのケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはセンター方式の記入を依頼し、様子をお伺いし、生活歴の把握に努め、職員間で共有している。日々のかかわりや会話から、生活歴や、好み等を引き出せるような声かけを心がけて行い、ミーティングや、カンファレンスで共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化はその都度申し送り、毎日のミーティング時に共有し、現状の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の生活歴、GHでの生活の様子、思い、御家族の意向に副って、観察や気づきの意見を収集します。課題を明確にして、原因を探ることで、維持できるのか、改善できるのか、そのためのアイデアを計画に繋ぐよう作成しています。	「混乱や気分の落ち込み」を課題とする入居者について、「認知症を学び状況に合わせた声がけとケア」を計画書に入れた。本人意向の「自分でしたい」に応じ「家事支援の継続」で、その人らしい生活の継続を盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアを実践し、ケア記録に残し、カンファレンスには見直しをしている。カンファレンス時は、職員其々の意見も収集し、反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診の他、訪問看護、訪問歯科の利用など、利用者様の状況、状態に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナ禍にて地域との交流が無い状況だが、認知症カフェ、運営推進会議、地域の避難訓練にも積極的に参加していた。地域のボランティアの方にも積極的に来棟して頂いていた。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診されている方は、1名で家族が対応している。他の利用者様は、月2回の定期往診で症状、状態、受診結果はその都度、御家族様に報告している。又往診医の紹介で適切な医療機関への対応もできる。	ほとんどの入居者が訪問診療を受けている。週1回、訪問看護師が来訪し軽度の処置などを行っている。入居者に状態変化が見られた際は、主治医の指示を仰いでいる。歯科の訪問診療は7月から再開している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護、歯科往診では、ご本人の状態、特変、相談事項等の申し送りの記入、来棟時には、口頭にて相談報告をし、指示を仰ぎ、適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期の退院ができるように病院との情報交換を行い、御家族への経過説明などこまめに行っている。いつ退院できても良いように体制を整えている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者様には、往診Dr. のから御家族へ終末に向け状態の説明を管理者、主任同席にて行っている。職員はDr. の指示に従い、状況にあった対応、ケアを提供し、御家族の思いを重視しながら支援している。	入居時に、看取り介護について指針を説明し、同意書を交わしている。医師の判断によることや本人・家族の意向に従って援助することを伝えている。出来る限り口から食べることができるよう支援すること等、状態に応じて段階ごとに話し合いを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は往診医と連絡を取り指示に従い対応している。年に2回消防署の方を講師に招き、AEDの使用方法、心肺蘇生法を指導して頂いているが、今年はや行っていない。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害時のマニュアルを作成し職員間で共有している。防災委員中心となり備蓄品の定期点検、利用者様の状態把握、地域の方々の協力体制や、連絡網の更新等、コロナ禍でも出来る対策を行っている。	備蓄品の在庫確認や補充をしたり、機器の点検や災害時連絡網の作動訓練を行った。コロナ禍や管理者の入れ替えなどがあり、隣接する同法人の通所事業所にならない、今年度の避難訓練はしていない。	入居者の命を守るための訓練であることを再考願いたい。ウィルス感染予防策を保持しながら、独自に行える避難訓練のあり方を検討し、実践していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの生活のリズムを大切にしている。自己決定や残存能力を活用して頂き、感謝の言葉を伝える声掛けを行っている事で、利用者様は誇りをもって生活して頂いている。居室の出入り、トイレ誘導等はプライバシーに配慮した声掛けや対応を行っている。	「不快のないアプローチ」の研修で、やってはいけない対応や言い方などを学んだ。声かけの際は、時間帯や自負心などの性格を考慮し、その人の「今の状態はどうか」などに気を配って言葉を選んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いを最優先しながら、自らの意思や行動が引き出せるような声掛けや、さりげないセッティングを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まり事やスケジュールはありません。本人の意思を尊重したり、ひとつひとつの行動も制止せず見守り、ペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している方は、自分なりのおしゃれや服装をして頂いており、意志が問えない方には、気候や好みを配慮しながら、その人らしい服装を選んでいる。家族が遠方の利用者様は、持参された衣類から好みを判断し、職員が買い物で補充する事もある。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理が得意な方には、調理を手伝って頂いたり、味見をして頂いたりしている。食事介助が必要な方には、献立を伝えて食べて頂いている。その方の動きに合った片付けをしていただいている。	餅つきして供え餅を作ったり、夏に流しそうめんやかき氷で季節を楽しむ工夫がある。花見には、好きな物や食べたい物が並び、鮭のたたきやカップ麺など多彩である。行事食には職員のアイデアが活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量はパターンシートにて管理し、食事は刻みやミキサー等その方の状態に合わせて摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様の状態に合わせて、声掛け、見守り、仕上げ磨き、全介助で実施している。又、希望者は、定期的に歯科往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン表を確認したり、出勤スタッフの連携でトイレ訴えやのサインを見逃さないように排泄の支援を行っている。状態の観察や、情報の共有、検討を細目に行い、利用者様視点のケアを行うよう努めている。	失敗の回数が増えても、すぐにはオムツにしないことや座位が取ればトイレを使用する等を共有している。尿意を感じてもらうことを大切に、その人毎に適切に誘導することで、リハパンから布パンツになった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様ひとりひとりの排便状況を把握し、乳酸菌飲料や、起床時の水分摂取等で工夫し、状態をDr.に相談しながら、下剤の服用を行っている。合わせて日中の水分の摂取も心掛けている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	体調や気分配慮した、無理強いない声掛けを行っている。曜日、時間帯も決めていない。入浴の身体への負担にも配慮している。気がすすまない方には足浴のお誘いするようにしている。「入浴を楽しむ」という、決めつけの支援にならないよう、清拭などの対応もしている。	入浴時は「気持ち良く、安全に」に気を付けている。「いかがですか」など、その人に合った無理強いない誘い方をしている。入浴を認識できない入居者には、湯船の湯に触れるなど前段を踏む支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、本人の状態や気分に合わせて起床の時間を設けている。安眠できるように、室温、湿度の管理を行い、乾燥には、濡れたタオルを居室内に干す等、加湿対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Dr.の指示通り服薬している。ピルケースにセットし、数回のチェックを行い、服薬もれに注意し、服薬支援の理解にも努めている。体調の変化が見られた場合にはDr.に相談し指示を仰いでいる。変更や追加があった際はミーティングで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	情報の収集を行い、一人ひとりのADLや、生活歴に配慮し日常生活に必要な家事等、役割を持って頂けるよう積極的に声かけしている。感謝の声掛けは必ず行い、やりがいを感じて頂いている。DVDで歌謡ショーを鑑賞される等気分転換を図っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により外出や行事は中止が続いており、ご家族との外出は受診の実になっているが、感染対策を行い安心して出かけられるようご家族様とも共有・協力している。	ホームの敷地内を散歩している。中庭では、日差しを浴びてトンボを交えての芋煮会をした。コロナ禍で外出を避け、桜のタペストリー制作で花見気分を出した。恒例のあやめ見学に代えて、パネルを作って記念撮影するなど、入居者の笑顔を引き出す工夫をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて職員と一緒に買い物に行ったり、職員が代行したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望があれば、かける作業を代行し、家族様と会話ができるよう支援している。手紙を書ける利用者様には、積極的に声かけしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の明るさを取り入れ季節や時間の感覚を体感できるようにしたり、窓を開け外の空気を取り入れている。	リビングには、みんなでオーナメントを付けたクリスマスツリーやリースを飾っている。それぞれのユニットで、季節に合ったちぎり絵などの作品を飾っている。職員の提案で、加湿器を追加して配置した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが、それぞれ好む場所で過ごせるよう配慮している。気の合った利用者様の座席の配置換え等も行いながら、安心できる居場所となる工夫をしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具や、家族の写真や人形、手紙等を飾ったり、状況に応じて工夫している。	状態の変化に応じて、布団からベッドに変えるなど、暮らしやすさを大切にしている。自分で配置換えをする人もいる。自宅に飾っていた本人制作の手毬を居室に飾るなど、リロケーションダメージに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に合わせて、目線を低くした表示などわかりやすいように心がけている。長くて幅の広い廊下は、自力歩行しやすいよう、常に明るくして障害になるものが無いようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470900242		
法人名	株式会社 アルテディア		
事業所名	グループホームゆうゆう多賀城	ユニット名	もも
所在地	宮城県多賀城市高崎3丁目29-1		
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 29 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2 年 12 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年は新型コロナウイルスの影響により外出やイベントの自粛、面会も謝絶となる期間があり異例の年となりました。もも棟では高齢の利用者様が多く、体調が不安定だったり外出を好まない方もおり元々外出の頻度は少ない方でしたので新型コロナウイルスの影響に問わず外出する事だけに目を向けず室内で季節を感じたり室内で楽しむ活動・行事に力を入れてきました。共有スペースに季節ごとの飾り物を利用者様と作成し装飾したり、季節の食べ物、月毎のイベント行事と全スタッフで考え取り組んでいます。又、今回の面会謝絶となった事で家族との繋がりについて考えさせられ、日常的な情報共有はもちろん、利用者様からご家族への電話や手紙などごく当たり前に行ってきた事を再度スタッフ間で共有し大切にしていきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多賀城市役所から西へ800mの所、平屋建ての3ユニットから成る「グループホームゆうゆう多賀城」がある。学校や文化施設、商業施設が散在する中の住宅地の一角にあり、開設17年で地域に馴染んだ暮らしをしている。基本理念の「すべての高齢者が自分らしく生きて笑顔でいられる社会作り」を根幹にして、より良いケアをするために、各ユニットが独自の目標を掲げ達成に向けて取り組んでいる。入居者の残存機能を引き出す支援や入居者主体の観点で接遇することを大切にしながら、入居者が快適に暮らせるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 :グループホームゆうゆう多賀城)「ユニット名 もも 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義や役割を考え事業所理念を作り上げ、それを全職員で共有し実践に繋げている。	基本理念の「自分らしく笑顔でいられる」ことを継続している。毎年4月にユニット毎に話し合い、日頃のケアを振り返り、「相手の身になって考える」や「本人を知る」など、各々目標を具体的に掲げて取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域と繋がりながら暮らし続けられるよう近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流が出来るように努めている。	例年では地域の避難訓練に参加したり、手話や着物ボランティアの来訪、体験の受け入れなど多くあった。今年は市の指導があり、3月から来訪を禁止し、カフェの開催も中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナ禍で実施が困難になっているが地域の方々に参加できる認知症カフェの開催や中学校の職場体験受け入れを行ない地域貢献に努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上記同様コロナ禍で中止が続いているが文書にて行政、家族、地域の方に報告しサービスに反映出来るよう努めている。	入居状況や活動の報告、ケアの課題と取り組み実践についてなど報告している。市の発令を受けて、3月より会議開催を中止し、紙面配信を行っている。毎回の配信に、ホームでの感染防止対策状況を載せている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者は市町村担当者や市町村から委託を受けた地域包括支援センターに対し事業所の考え方や実情を伝える機会を作り課題解決に向けた話し合いを行っている。	感染予防に関して、面会に対する規定などの通知が届いている。台風の際に、担当課に入居者が利用可能な避難所の確認を行った。居室の空き状況について、相談を受けることもある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束とは何か」を新人職員も含め正しく学べるよう研修を行っている。全ての職員が身体拘束の内容と弊害を認識し身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	各ユニットの職員で構成する「身体拘束廃止委員会」を開催している。ベッドの2点柵対応は家族の要望であっても「拘束でないか」やセンサーの使用は、職員の安心材料ではないかなど話し合った。身体拘束をしない工夫を検討するなど有意義な会議になっている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員が高齢者虐待に該当する行為を理解しており、虐待の大きな要因とする職員の精神的負担を減らす為情報を共有したり、相談しやすいよう工夫している。	身体拘束も虐待行為として捉え、委員会の議題に取り上げている。入居者の周辺行動を記録し、環境変化などを分析しケアに活かしている。職員との個人面談を持ち、ストレスを溜めない配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の参加が困難だったが内部での勉強会で学び全スタッフが共有出来るよう報告しあい支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際に説明を行っているが疑問が出た際にはその都度説明し納得して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、日常の様子を伝え家族のご意見や要望を伺っている。	毎年「利用者満足度調査」を実施しており、様々な意見を聞いている。職員の接遇の仕方やケアに関すること等、それぞれに対応している。面会については、3月から要予約や時間、人数などを制限して行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に話し合える関係性を築いている。目標を作り個人面談を行なう際にも個々から意見を聞く機会を設けている。	環境や防災、勉強、リスク・感染などの委員会があり、職員の意見を反映させて運営している。ユニット会議では、テーマを決めて発言の機会を作っている。個別ケアについての工夫や意見が多く、反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を通し上司と面談を行ない向上心が持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学びたい研修に積極的に参加しそこで学んだことは伝達研修を通しスタッフ全員で共有している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会への参加等で交流し様々な意見交換が出来ている。	グループホーム協議会の「感染症に係る応援職員の派遣」の説明会に参加し、感染者が出た際に入居支援を継続できる協力体制づくりを行った。前年に交換研修を行い、入居者への対応など相談し合うことができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の言葉に耳を傾け、思いを汲み取りケアに活かしている。気付いた事は記録に残しスタッフ間で情報共有しより良いケアが行えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調時や入居時にお話を伺い不安な事や要望を知る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談時によく話を伺い、どのような状況にあるか確認し必要な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常での会話を大切にしながら作業やレクリエーションを行っている。又、その方に合った役割の提供を行ない感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者様の様子を伝えたり毎月のお便りでも生活の様子を報告している。気付きや変化があった際は電話で報告する等ご家族との連絡を密にしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様ご本人やご家族、親族の方に話を聞きご本人様の大切にしてきた馴染みの人、場所を知り、理解を深めケアや声掛けに反映させている。	生活歴を把握し、神社や動物園などに出掛けていた。会話に出てきた場所や趣味に、入居者の目が輝いたことを察知し、馴染みの場所や趣味だったことを知ることもあり、継続して対応につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方に合った役割や座席の見直しを行ない利用者様同士が良い関係づくりを行えるよう努めている。職員が間に入り会話をしたり月毎の行事も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供や他サービスへの移行時、相談や居宅ケアマネジャーとの協力を行わない状況に合わせた支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様がその人らしく暮らし続ける支援に向けて一人一人の思いや希望、意向の把握に努めている。意向の確認が困難な方に対しては「本人なら」という視点に立って意向が汲み取れるよう努力している。	生活歴を参考にしたり、「やりたい」「食べたい」の思いを本人や家族から引き出している。職員はVR機で入居者目線を体験し、行動の不安は言葉で軽減できないことを実感し、言葉掛けのケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、関係機関より得た情報を現在の暮らしと共にスタッフ間で共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、言動・行動等でその方の心身状態、今出来る事を把握し記録する事でスタッフ全員で共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ、ご家族、医療機関での意見・アイデアを取り入れ現状に合った介護計画を作成している。	「混乱や気分の落ち込み」を課題とする入居者について、「認知症を学び状況に合わせた声がけとケア」を計画書に入れた。本人意向の「自分でしたい」に応じ「家事支援の継続」で、その人らしい生活の継続を盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化を必ず記録し口頭で申し送り情報共有に努めている。又、変化に関しては話し合いを行ない介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時にはご本人の様子を報告している。様々なニーズがあるが対応しきれない場合は出来ない事を明確にし必要に応じて協力を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症カフェ、イベントや傾聴ボランティア等で地域の方と交流している。近隣の美容室やコンビニエンスストアを利用するなど日常の暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診医やかかりつけの医療機関への受診を支援している。受診内容を記録しご家族にも報告を行っている。	ほとんどの入居者が訪問診療を受けている。週1回、訪問看護師が来訪し軽度の処置などを行っている。入居者に状態変化が見られた際は、主治医の指示を仰いでいる。歯科の訪問診療は7月から再開している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用している。体調の変化などを伝え適切な処置やアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族の負担や不安が軽減されるよう相談に努めている。往診医や訪問看護師との相談にも努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化に合わせて早い段階で往診医、ご家族様との話し合いの場を設けている。スタッフ間でも終末期のケアを話し合い、チームで取り組んでいる。	入居時に、看取り介護について指針を説明し、同意書を交わしている。医師の判断によることや本人・家族の意向に従って援助することを伝えている。出来る限り口から食べることができるよう支援すること等、状態に応じて段階ごとに話し合いを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は往診医と連絡を取り指示に従い対応している。救命救急の講習は年2回あるが今年はや行っていない為ユニット内で再度資料を見ながら勉強会を開いている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害時のマニュアルを作成し全職員で共有している。地域の避難訓練にも参加し避難場所の確認や避難時の協力を呼びかけている。備蓄品の定期点検、利用者様の状態把握も行っている。	備蓄品の在庫確認や補充をしたり、機器の点検や災害時連絡網の作動訓練を行った。コロナ禍や管理者の入れ替えなどがあり、隣接する同法人の通所事業所にならない、今年度の避難訓練はしていない。	入居者の命を守るための訓練であることを再考願いたい。ウィルス感染予防策を保持しながら、独自に行える避難訓練のあり方を検討し、実践していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の生活リズムを大切にし意思を尊重する声掛けや対応に努めている。又、親しみを持ちつつ丁寧な言葉遣いを心掛けている。	「不快のないアプローチ」の研修で、やってはいけない対応や言い方などを学んだ。声かけの際は、時間帯や自負心などの性格を考慮し、その人の「今の状態はどうか」などに気を配って言葉を選んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自ら選択できるような声掛けの工夫に努めている。日々のコミュニケーションを大切にし表情から思いを汲み取る努力も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切に希望に沿った声掛けや対応をしている。スタッフ間での情報共有をしっかりと行い体調等を把握し安心・安全に過ごせる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と共に選んだり、代行する際はその方の好みや気候に合った服を選ぶなど配慮している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合った食事量や食事形態に配慮している。ご本人のペースで食事を楽める工夫やミキサー食の方にはメニュー内容を説明し召し上がって頂いている。	餅つきして供え餅を作ったり、夏に流しそうめんやかき氷で季節を楽しむ工夫がある。花見には、好きな物や食べたい物が並び、鮭のたたきやカップ麺など多彩である。行事食には職員のアイデアが活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行ない嚥下・咀嚼等の能力に合わせた食形態に配慮している。気付きや変化は医師、看護師に報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや介助を行っている。定期歯科検診や希望があれば週に1回の歯科往診を利用できる。歯科衛生士と話し合う場がありその方に合った口腔ケアを行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録しトイレサインを見逃さないよう連携して声掛け案内している。	失敗の回数が増えても、すぐにはオムツにしないことや座位が取ればトイレを使用する等を共有している。尿意を感じてもらうことを大切に、その人毎に適切に誘導することで、リハパンから布パンツになった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の観察、記録をし薬に頼らずこまめな水分の提供、個々に合った乳製品・乳飲料の提供をし自然排便に繋げている。また、医師に相談し下剤の調整など排便コントロールを行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	その日の体調や意思を伺い入浴している。入浴剤の使用やシャワー浴、洗髪も個々の希望に合わせている。	入浴時は「気持ち良く、安全に」に気を付けている。「いかがですか」など、その人に合った無理強いない誘い方をしている。入浴を認識できない入居者には、湯船の湯に触れるなど前段を踏む支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や傾眠の様子を観察し一人一人に合った休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬効能表にて薬の理解が出来るよう努力している。薬の変更時には服薬後の様子を記録し変化を見逃さないようにしている。医師との相談も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴をご本人やご家族様より情報を得て、食器拭きや洗濯物たたみ等の家事支援、塗り絵や編み物等の趣味活動を提供している。季節の食べ物を提供し食の楽しみ、気分転換の支援をしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により外出制限や定期的な行事は中止が続いているが地域の感染状況を常に把握し対策を万全に、安心して出かけられるようご家族様とも共有・協力している。	ホームの敷地内を散歩している。中庭では、日差しを浴びてトンボを交えての芋煮会をした。コロナ禍で外出を避け、桜のタペストリー制作で花見気分を出した。恒例のあやめ見学に代えて、パネルを作って記念撮影するなど、入居者の笑顔を引き出す工夫をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理しているがご自分でも管理し近くのコンビニやスーパーでご自分で支払いをされたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のお便りに本人にも記入して頂いたり電話はいつでも使用できるようになっている。毎日定時に電話をかける方もおられ支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて壁飾りを作っている。共有空間は居心地よく過ごせるようソファや椅子を置いたり配置を変えるなど工夫している。	リビングには、みんなでオーナメントを付けたクリスマスツリーやリースを飾っている。それぞれのユニットで、季節に合ったちぎり絵などの作品を飾っている。職員の提案で、加湿器を追加して配置した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人がそれぞれ好む場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参されたり状態に合わせて配置を変えたりご本人の使い勝手が良いうようにご本人の希望に合わせている。	状態の変化に応じて、布団からベッドに変えるなど、暮らしやすさを大切にしている。自分で配置換えをする人もいる。自宅に飾っていた本人制作の手毬を居室に飾るなど、リノベーションダメージに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送れるようスタッフ間で常に利用者様の状態の変化を話し合っている。安全に生活出来るよう環境を整える工夫をしている。		